令和６年度
紀の川市全国学力・学習状況調査結果概要

実施目的

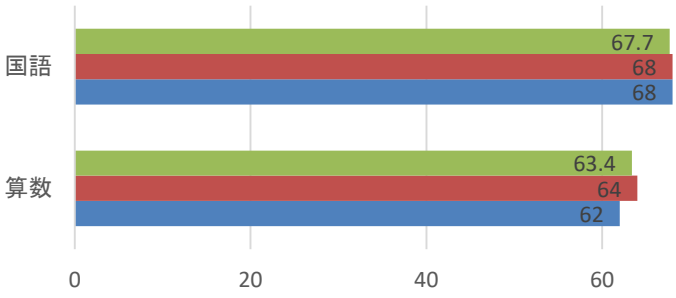
１．義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図る。
２．学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的に検証改善を繰り返すことで教育指導や学習状況の向上を図る。

実施日　学校数　児童生徒数

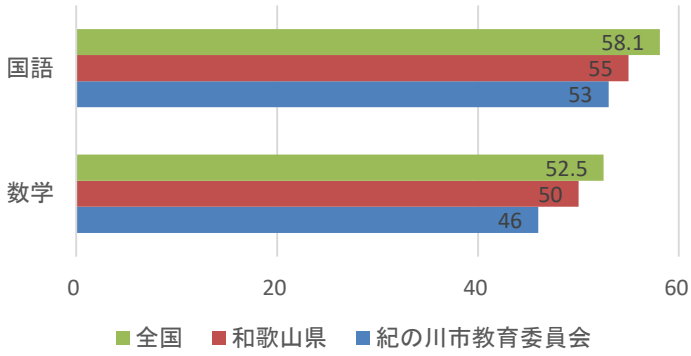
令和６年４月１８日（木）
紀の川市内小学校１５校　６年生　児童４２７　名　／　紀の川市内中学校５校　３年生　生徒３８１名

教科別調査結果概要

小学校正答率（%）



中学校正答率（%）



【小学校国語解説】
「話すこと・聞くこと」で、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかを問う問題では全国平均を5ポイント以上上回った。「書くこと」で、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う記述式の問題は、全国平均を下回った。また「読むこと」で、物語の人物像や全体像を想像したり、表現の効果を考えたりする記述式の問題で、全国平均を5ポイント以上上回った。同じ記述式問題でも、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるような書き表し方について、学習を深めていく必要がある。また、主語と述語の関係など文法についても学習に取り入れながら繰り返し扱っていく必要がある。

【小学校算数解説】
「数と計算」の領域で、除数が小数である場合の除法の計算は、全国平均を5ポイント以上上回っているが、問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題では全国平均を下回っている。「図形」の領域では、図形を構成する要素の一つである辺に着目し、立方体の体積を求める問題では、全国平均を大きく下回った。「変化と関係」の領域で、速さの意味の理解、道のりと時間の関係について問われ、全ての問題で全国平均を下回っている。問題場面を理解し、学習したことを活用できるよう、基本的な学習内容の定着はもちろんであるが、日常生活と結びつけたり、発展的な学習に取り組んだりしていく必要がある。

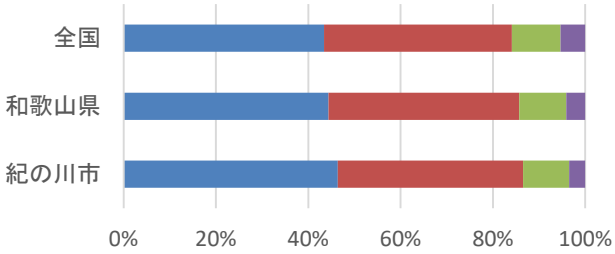
【中学校国語解説】
「話すこと・聞くこと」の内容で、話合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができるかを問う記述式の問題で全国平均を下回った。「読むこと」の内容で、目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかを問う記述式の問題でも全国平均を下回った。「書くこと」の内容で、表現の効果を考えて描写するなど自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することができるかどうかを問う記述式の問題も全国平均を下回った。「我が国の言語文化に関する事項」の内容で、行書の特徴を理解しているかどうかを問う問題では、全国平均を2ポイント上回った。自分の考えを記述することはできているが、必要な情報を取り出すことや、表現の効果を考えて説明したりできるように、言語活動を充実させていく必要がある。

【中学校数学解説】
「数と式」の領域では、連続する二つの偶数を文字を用いた式で表すことができるかどうかを問う短答式の問題や、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明できるかをみる記述式の問題、統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明できるかどうかを問う記述式の問題で全国平均を下回った。「データの活用」の領域では、与えられたデータから最頻値を求める問題で全国平均を下回り、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する問題では、全体の正答率自体が低いが全国平均と同等であった。思考の過程を的確に表現することや、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明をする活動の充実が必要である。

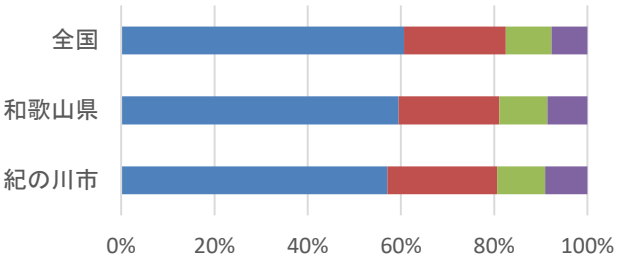
児童生徒質問紙調査結果概要　※全項目（小63、中65）の内、特徴的なものを一部抜粋

小学校

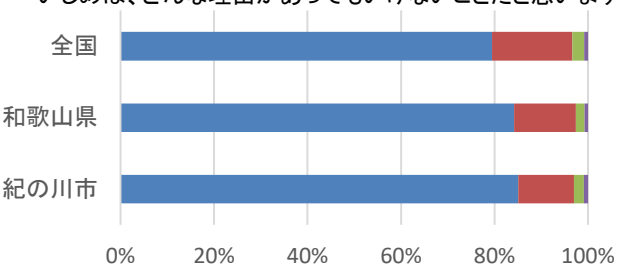
自分には、よいところがあると思いますか。



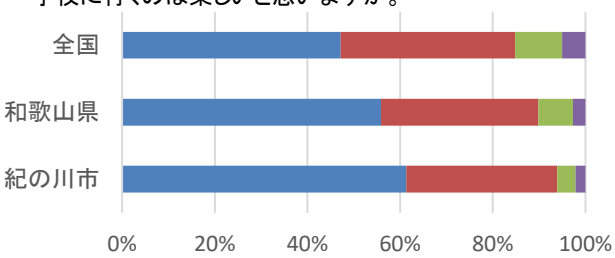
将来の夢や目標を持っていますか。



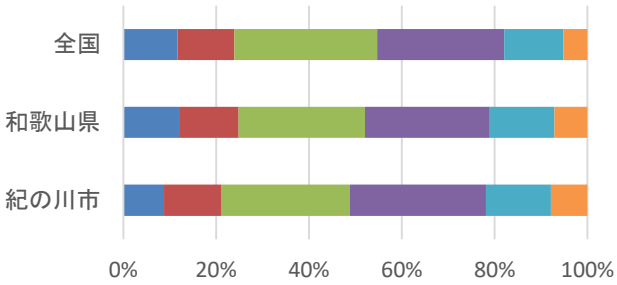
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



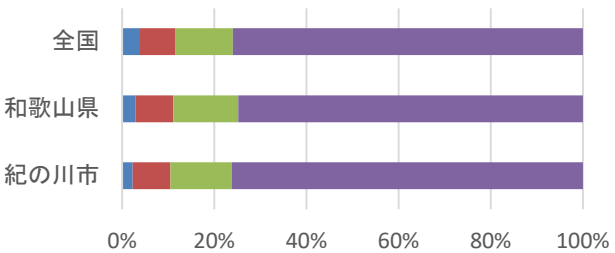
学校に行くのは楽しいと思いますか。



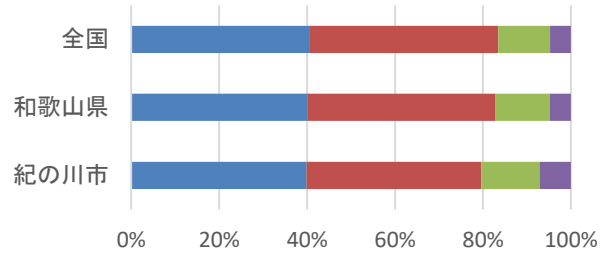
一日あたりの学習時間（塾等も含む）は、どれくらいですか。

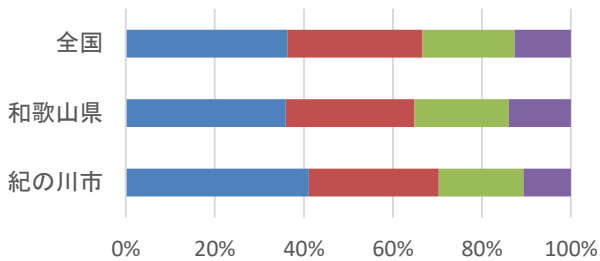


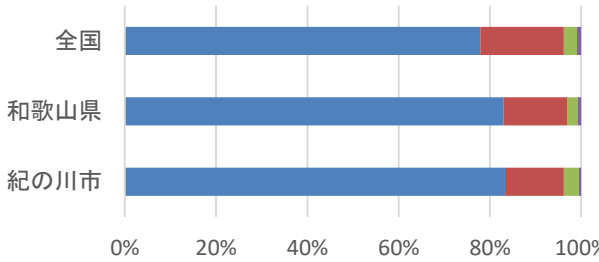
新聞を読んでいますか。

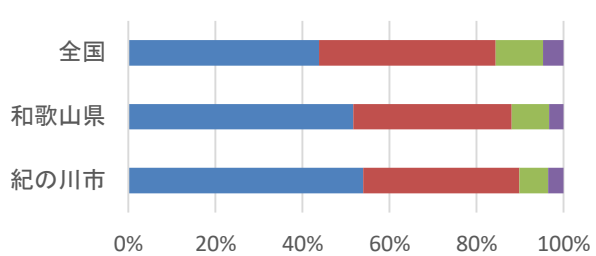


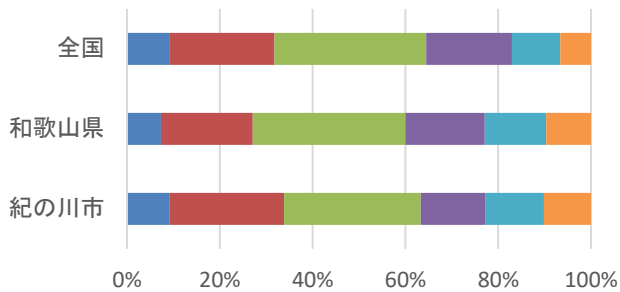
中学校

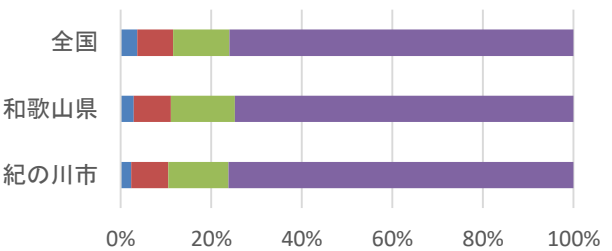








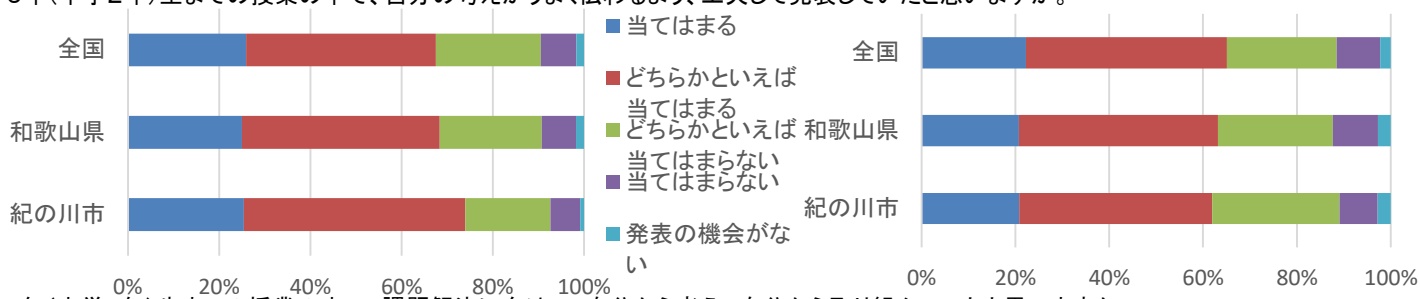




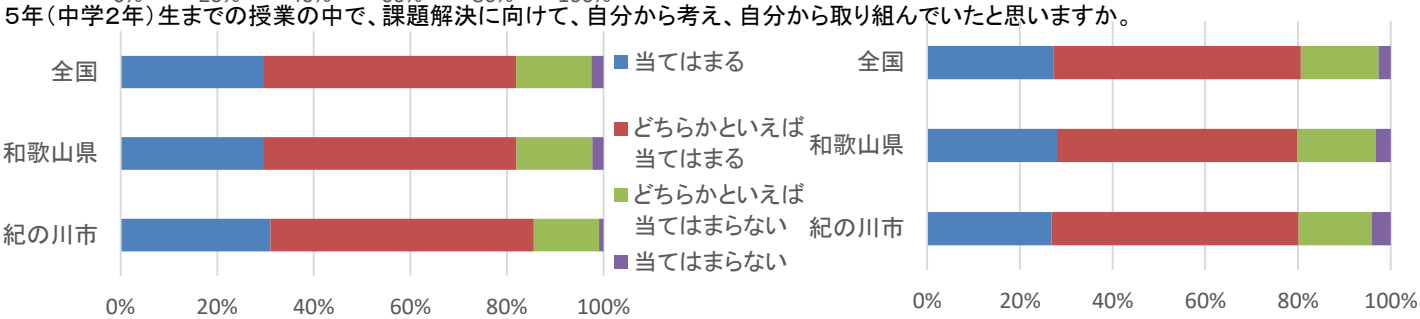
児童生徒質問紙調査結果概要　※全項目（小59、中72）の内、特徴的なものを一部抜粋

小学校　　中学校

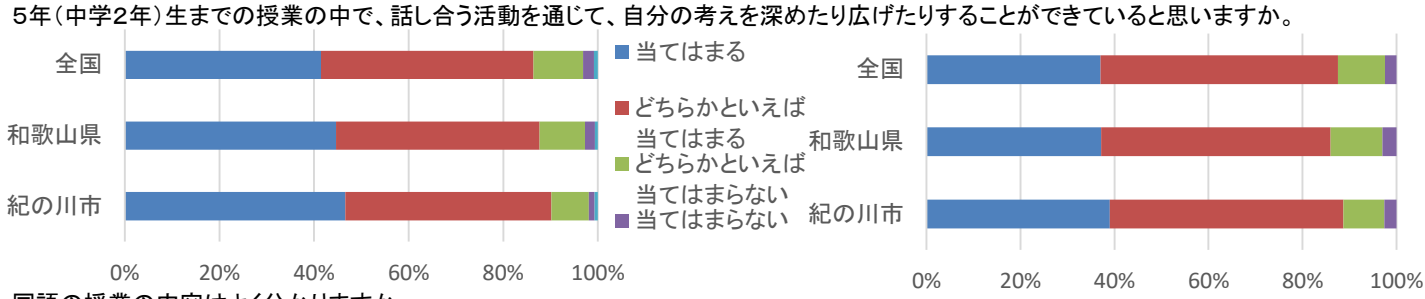
5年（中学2年）生までの授業の中で、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたと思いますか。



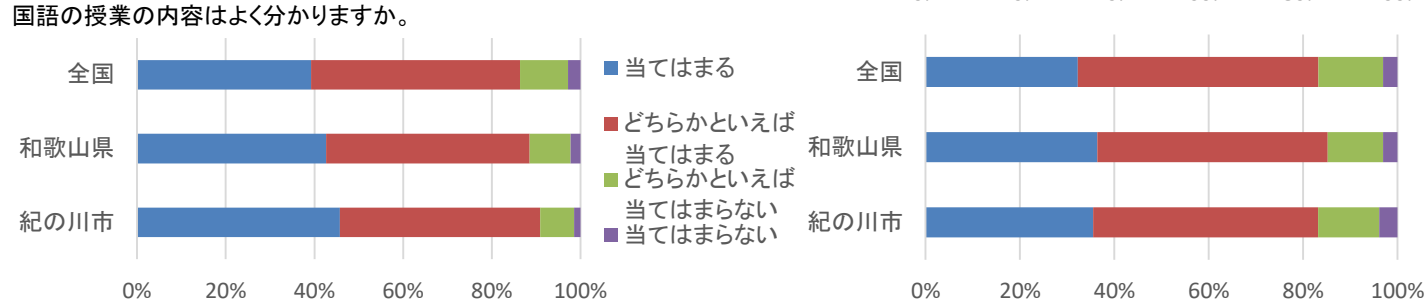
5年（中学2年）生までの授業の中で、課題解決に向けて、自分から考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



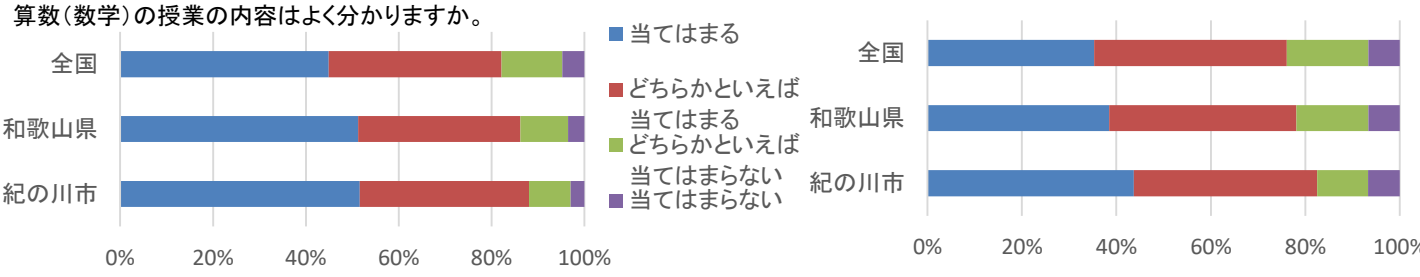
5年（中学2年）生までの授業の中で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。



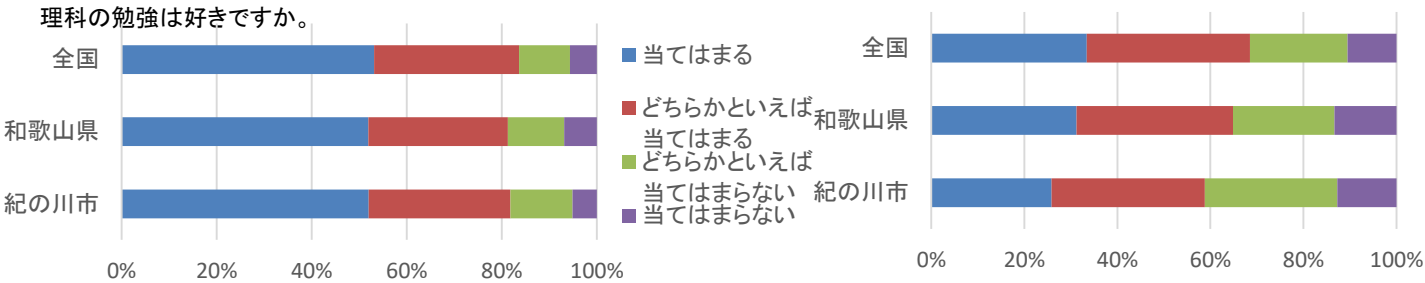
国語の授業の内容はよく分かりますか。



算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。



理科の勉強は好きですか。



【本市小学生の傾向】
　本市の小学生は自分にはよいところがあると自己認識できる児童、学校へ楽しく通っている児童の割合が全国平均よりも高い。学習面においては、勉強は好きとは言えないが、授業の内容がよく分かると肯定的に回答している児童の割合は昨年度よりも高くなっている。学習への意欲はあり、安定して学習に取り組んでいることがうかがえる。一方、家庭での学習時間は全国より短い傾向にあり、新聞をほとんど読まないという児童は全国と同様に７０％を超える。

【本市中学生の傾向】
　本市の中学生は学校に行くのが楽しいと回答した生徒の割合が全国平均よりも高い。将来の夢や目標を持っているという生徒の割合も高い。学習面においては、教科の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国平均よりも低いが、授業の内容がよく分かると肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均と同等の教科と、全国平均よりも高い教科がある。１日あたりの学習時間は、２～３時間以上と回答した生徒の割合が全国平均よりも高いが、３０分未満、全くしないと回答した生徒の割合も全国平均よりも高く、二極化している。

概要についてのまとめ・今後の方向性

◇選択式や短答式問題と比べ、記述式問題は正答率が低く、無解答率が高くなることから、あらゆる教科で様々な条件に合わせて書いたり、根拠を明確にして書いたりする活動を取り入れ、「書く力」を身につけられるようにする。

◇データや図・表などの資料を活用した問題の正答率が低いことから、積極的に資料活用を取り入れた授業を展開し、データや図・表を読み取らせたり、それらの資料から分かること、考えられること等を言語化する力を身につけられるようにする。

◇学習への興味・関心を高めることができる授業づくりに取り組む。全ての授業において「和歌山の授業づくり基礎・基本３か条」の徹底を図るとともに、紀の川市学びのスタンダード（ver.2.0）を元とした各学校のスタンダードを生かし、児童生徒が分かりやすく、学習内容を定着させることができるような授業改善に取り組んでいく。

◇学びの過程、学習に対する自分自身の変容・成長、学びのつながりを意識し共有できる「振り返り」活動を充実させる。

◇個人で考察し、仲間と話し合って考えを深め、発表するという主体的・対話的な授業を進めている中、児童生徒質問紙において授業で課題解決や話し合い活動、発表の工夫などの取組をしていると回答した児童生徒は全国平均と同程度となってきていることから、今後も引き続き取り組んでいく。

◇タブレットを活用した自主学習の機会を設け、一人一人の児童生徒に適した学習課題に取り組むことができるよう、保護者との協力・連携を図って家庭学習を充実させる。

　紀の川市では、調査結果を分析し、学校教育や本市の教育施策の改善、児童生徒の学力の向上等につなげるため、具体策を立てるとともに、教育委員会が保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要であると考え、本市のホームページ等を通じて結果を公表しています。
　一方で、本調査によって測定できるのは、学力や生活状況の一面であることも踏まえ、教育上の効果や影響等を十分配慮し、紀の川市の将来を担い、21世紀を果敢に生き抜く人材育成のために、よりよい方策を考え取り組んでいきます。

担当課
紀の川市教育委員会教育総務課